

CSI3A-GW3・GW5 使用方法

※ご使用の際は必ず換気を行ってください

株式会社コメットカトウ

注意

- 扉の開閉の際、蒸気・熱気に十分ご注意下さい。
- 庫内に水をかける場合は、庫内温度が50°C以下に下がるまで絶対にかけないで下さい。
- お酒や味りん等に含まれるアルコールは煮切るなどして飛ばした上で使用してください。(アルコールが残ったままですと発火・小爆発する恐れがありますのでご遠慮下さい)。



- ① 換気装置の稼働を確認しガスの元栓と給水栓を開ける。
- ② 電源スイッチを入れる。(コントロールパネル側面)
- ③ 加湿モードを設定する。
※例はコンビモード加湿量100の状態です。
- ④ 庫内温度 を設定する。
- ⑤ 調理時間(運転モード)を設定する。
芯温はオプション
《 タイマー・連続(c.on)・ 芯温・芯温タイマーのいずれか》
- ⑥ 風量 を設定する。
- ⑦ 扉を閉め運転キーを1回押す。[予熱開始]
予熱中は「PH」が表示されます
- ⑧ 予熱完了ブザーが鳴ったら [予熱完了]
- ⑨ 扉を開け食材を入れ、設定内容を確認し扉を閉めて運転キーを2回押す。[調理開始]
- ⑩ 完了ブザーが鳴ったら停止キーを押す。[調理完了]

◆加湿モードの表示例



※設定変更する場合

⇒変更したいキーを押し、ダイヤルを回します。

※途中停止する場合

⇒停止キーを2回押して下さい。

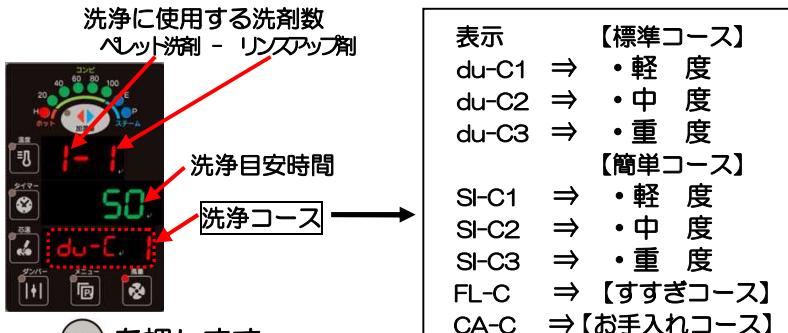
◆設定温度の確認 ⇒運転中に を押すと設定温度が表示されます。

- ◆ 扉を閉めた状態で を押し、扉を開けると庫内温度が下がります。(庫内が50°Cに下がると自動停止します。)
- ◆ を押すと庫内灯がつきます。
- ◆ を押すとお好みで加湿可能です。
- ◆ を押すとダンパーが開き、除湿できます。

CSI3A-GW3・GW5 自動清掃方法

- ① 調理/洗浄レバーを「洗浄」の位置にします。**
冷却  を3秒長押しします。→洗浄表示に切り替わる。
(レバーを調理の位置に戻し停止キーを3秒長押しすると
調理モードに戻ります。)

- ②  を押し、汚れ具合により洗浄コースを選ぶ。**



運転  を押します。

庫内温度が高い場合、冷却指示に従い冷却する。

- ③ 表示に従いペレット洗剤を庫内目皿へ投入します。**
扉を閉めると洗浄が開始されます。



※すすぎ、お手入れコースは洗剤は使いません。

- ④ ペレット洗剤での洗浄が完了すると rinsing 行程に移ります。ブザーが鳴ったら表示に従いリンスアップ剤を庫内目皿へ投入します。扉を閉めるとリンス洗浄が開始されます。**



※簡単、すぎコースはリンスアップ剤を使いません。

- ⑤ ブザーが鳴ったら完了。扉を開ける。**
洗浄中 洗浄完了



自動洗浄は途中で中止をしないで下さい。

途中で中止すると、追加のすぎ工程35~40分が開始されます。
(洗浄工程の進行状況により時間は異なります。)

- ⑥ コントロールパネル側面の電源を『OFF』にします。**

※ 標準コース軽度の場合、完了まで約 50 分かかります。
簡単コース軽度の場合、完了まで約 30 分かかります。

注意

- ・スチコンを衛生的に、長期間お使い頂く為に弊社純正品「コメットタフナーペレット」「コメットタフナーリンスアップ」を必ず使用してください。
- ・清掃を開始する時は、「保護手袋・保護マスク・保護メガネ」を使用してください。
- ※コメットタフナーペレット、コメットタフナーリンスアップ以外の洗剤では、庫内の汚れが十分に落ちない場合や機器を痛める場合があります。また、配管の詰まり・損傷・不具合について責任を負いかねます。

注意

- ・扉の開閉の際、蒸気・熱気に十分ご注意下さい。
- ・庫内に水をかける場合は、庫内温度が 50°C 以下に下がるまで絶対にかけないで下さい。

標準 コース 洗剤 + リンス剤	軽度	200°C以下の調理または脂分の少ない調理後、及び庫内の水垢汚れが気になる場合。 (乾燥工程あり)
	中度	脂分の多い食材の調理後、及び庫内の水垢汚れが器になる場合。 (乾燥工程あり)
	重度	脂分の多い食材の繰り返し調理や長時間の調理後、及び庫内の水垢汚れが気になる場合。 (乾燥工程あり)
簡単 コース 洗剤のみ	軽度	200°C以下の調理または脂分の少ない調理後 (リンス、乾燥工程なし)
	中度	脂分の多い食材の調理後 (リンス、乾燥工程なし)
重度	重度	脂分の多い食材の繰り返し調理や長時間の調理後 (リンス、乾燥工程なし)
すぎ コース		洗剤を使用しない水洗い (乾燥工程なし)
お手入れ コース (リンス剤のみ)		庫内の水垢汚れが気になる場合 (乾燥工程あり)

月に1～2回のお手入れ

二重ガラス内側部分

柔らかい布巾で拭いて下さい。

(傷つき防止)



※機械が十分冷めてから行って下さい。

※コメットタフナーAなどのアルカリ洗剤は使用しないで下さい。ガラスの接着材が溶けて剥離します。

ペレット洗剤、リンスアップ剤のお問合せはコメットカトウまでお願いいたします。

